

「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」最終評価結果表

研究テーマ(領域)	文化財に含まれる膠の自然科学的分析による古代文化史および技術史の解明	
研究総括	宮路 淳子	
所属機関・部局・職	奈良女子大学・大学院人間文化研究科・准教授	
評価区分		
○	A	事業の目的に照らして、期待以上の成果があった。
	B	事業の目的に照らして、十分な成果があった。
	C	事業の目的に照らして、相応の成果があった。
	D	事業の目的に照らして、相応の成果があったとは言い難い。
	E	成果がなかった。
評価にあたっての意見		
<p>化学分野と人文科学が異分野融合して膠の精緻な科学的分析方法を創造し、古文化財調査に異分野融合的知見を導入したことは、重要な成果である。膠のコラーゲン抽出技術の開発と墨の動物種の同定のための技術を確立し、この技術を用いて少数ではあるものの、古文化財から新たな歴史的側面を明らかにした点は評価できる。また、本手法はタンパク質を含む試料であれば応用が可能であるため、今後絹を含む、広範な試料への適応も期待される。</p> <p>一方で、コラーゲン中の不純物の抽出・測定における未解決課題の解明や集められた資料の詳細な解析については一層の努力を待ちたい。</p> <p>研究の発信及び普及の努力は評価できるが、海外も含めて研究成果のより積極的な成果発信を期待したい。</p>		